

# はじめに

## 質問と答えの「型」を身につける

英会話には、「相手の質問を理解する」「答えを考える」「英文を作る」「発話する」という4つのステップがあります。これらのステップを瞬時にこなすのは簡単ではありません。しかし、事前に本書で練習を重ねることで、その難しさを乗り越えることができます。質問と答えの「型」を頭に入れておくことで、英会話が驚くほどスムーズに進むようになるはずです。

本書に収録されている50の質問は、私がこれまでの英会話経験で何度も聞かれたものや、20年以上にわたるレッスンや講義で生徒の皆さんにくりかえし尋ねてきたものばかりです。

質問に対する答えがすぐに思い浮かばない場合は、本書の回答例を参考にしてください。回答例に加えて、文法のヒントや言い換え表現も掲載していますので、それらを活用しながら、自分の言葉で答えを作ってみましょう。

## 自己理解と自己開示

英語を学ぶことは、世界中の英語話者とつながるための第一歩ですが、それだけでなく、自分自身と深くつながるプロセスにもなり得ます。

少しだけ私自身の話をさせてください。20代後半から仕事と両親の介護を両立させる中で、私はしばしば自分を見失いそうになることがありました。その時、私を支えてくれたのが英語学習でした。日本語で自分の気持ちを表現しようとすると、さまざまな考えがあふれて言葉にならないことがよくありました。しかし、その時の気持ちを限られた語彙と文法しか持たない英語で書いてみることで、かえって自分の心の内を素直に表現でき、願望が明確になりました。

30歳で英会話スクールを退職し、フリーランスとして新たな道を歩み始めた時も、英語学習は私にとって重要な支えであり続けました。常に「どうすればもっと上達するか」と自問し、自己と向き合いながら学習を続けていきました。その結果、自分の得意なことも苦手なことも含めて、ありのままの自分を受け入れる力が身

についたように思います。さらに、自分にとって心地のよい学び方は、自分らしい働き方や生き方につながるということにも気づいたのです。英語学習を続けることで、自分自身をしっかりと理解し、心の安定も得られるようになり、英語学習は完全に私のライフワークとなりました。

「自己理解」に続く次のステップは「自己開示」です。英語を学び、教えてきた中で強く感じていることですが、「自己開示」には勇気と練習が不可欠です。特に、初対面の人と英語で会話する場合、その難しさは格段に増します。私も初心者頃は、相槌を打つだけで自分のことを何ひとつ伝えられず、悔しい思いをしたことがたくさんあります。その経験から、あらかじめ質問と答えのパターンを作り、暗唱できるまで反復練習をしました（これがまさに本書でおすすめしたいことです）。そして、実際の英会話という「場数」を踏むうちに、徐々に自分のことを自然に表現できるようになりました。英語で「自己開示」を練習したことで、日本語での会話もより心地よく行えるようになったのは、嬉しい副産物です。

ありのままの自分を理解し、それをオープンにすることで、会話相手も心を開いてくれるものです。本書は英会話の上達に加えて、そんな「自己理解」と「自己開示」をサポートするための一冊です。50の質問に答えながら、自分自身と向き合い、自分のことを表現するというプロセスを楽しんでください。

ちなみに、回答例には家族・友人・知人、そしてレッスンや講義で出会った多くの方々との実際の会話のエッセンスが存分に盛り込まれています。これまでたくさんの方のインスピレーションを与えてくださった皆さんに、心から感謝しています。ありがとうございます！

そして、毎回イキイキとしたやりとりをしてくださる担当編集の大石裕子さんにも、心から感謝申し上げます。今作も大石さんが最初の読者でいてくださったことが、執筆の大きなエネルギーとなりました。ありがとうございました。

それでは、「本書の使い方」をしっかりと読んで、自己理解と自己開示を通じた英語上達の旅を、どうか楽しんでください！

Enjoy your journey with this book!

2024年12月  
富岡恵